

# 社歴部 部長論

## 第2代部長

### 新コーナー、誕生です。

「部長としてのあとがきを書いてほしい」——今回、本冊子「社会休暇 Vol.5」の編集を担当してもらうことになった後輩から、このように頼まれました。

ただ、一口に「あとがき」と言っても、見学レポの最後なり付録の最後なり、この冊子には以前私が設定した「あとがき」の場が既に複数存在していて、これ以上「あとがき」を乱立させては読み手が混乱してしまいます。

それならば独立したコーナーとしてレギュラー化してしまおうと考え、この「部長としてのあとがき」は、Vol.5より『社歴部長論』と題して実現することになったのです。

歴代部長が、これからここに何をつづっていくのか・・・コーナーそのものが末永く存続していくことを強く祈りつつ、楽しみにしていきたいと思います。

### 部長として、初めて“作る”作業

社会歴史研究同好会に籍を置いて、今年で4回目の高学祭を迎えます。その1回目では、中学一年の『一部員』として「社会休暇 Vol.2」にレポートを掲載しましたが、『部長』として迎えた2回目・3回目は、部員各自の原稿をまとめて一冊の本にするという編集作業に追われ、自らのレポートを作成することはできませんでした。

しかし、部長就任当時は2名しかいなかったこの同好会も、今では部員数総勢14名にまで成長し、他の同好会はおろか文化部にも引けをとらない規模となっただけでなく、厚い信頼の

おける後輩たちもできて、その一人に今回「社会休暇」の編集を担当してもらうことになったのです。部長として、また先輩として、これほどうれしいことはありません。

そうとなれば、あの“1回目”と同じように、でも『部長』として、3年ぶりに文章を書いてみようと思いました。裏方一方で、他の部員のレポートをまとめたり、手直ししたりするばかりだった自分。しかし、部員たちは回を重ねてどんどんレポートの腕を上げていく。——おそらく、彼らは入部して以降、私のレポートを読んだことはないはずです。これではいけない。そろそろ『部長』の“真の実力”を見せつけなければならない、と思ひましてね（笑）

## 取り上げたのは「報道」

震災というテーマをみつめたとき、「報道について取り上げよう」と考えたのはごく自然なことでした。私はこれまでも、ことあるごとに「報道」というものに焦点を当ててきたんです。それは自分の父親が、テレビ局で報道の仕事に携わっているから。その影響も受けて「選挙特番ごっこ」なんかをやっていた小さい頃から、ニュースというものに親しんできました。

「ニュースは縁遠い存在」とか、「若者の投票率が低下している」とか言われていますが、私にしてみれば信じられないことです。だって、時事問題って面白いじゃないですか。そしてどんな人の生活にもかかわる大事な話。それが「縁遠い」なんてありえない。まして、その時事問題に一般人が唯一関与できる「選挙」に関心がないなんて、もう驚愕……。

## 新しいことをやりたい

「同好会として、新しいことをやれないか」——。高校生になったこの4月から、いや正確にはその半年くらい前から、そう考えるようになりました。他部がやりそうもないことを次々に取り入れて、実践していく。この姿勢の集大成が、まさに今回の社歴研の高学祭出展で体現されることになると思います。いや、体現します。絶対。（注：執筆時はまだ準備を始める前）

それはどんな所かといえば、まずは「本格的な展示」を目指すということ。今年の目標は“町の歴史博物館”なんです。小規模ながらも、その地域に密着した密度の濃い展示がある。それと同じように、たかだか一同好会の展示ではあるけれども、内容は深い。さらに、落ち着いて見学できるように室内を暗くして、スポットライトで展示パネルを浮かび上がらせる。

去年は無理を言ってパソコン室で印刷を全て行い、冊子の中身を拡大コピーしたものを「展

示パネル」と見立てる貧弱さ（笑）。あ、これでも去年の監修をしたのは私ですよ。予算だって割り当て分の9割も残ってしまいました。じゃあ今年はどうでしょう?? 現段階ではまだ構想だけですが、アレにコレにと暴走して、文化祭予算だけでなく年間予算も合わせて9割近い出費を予定しています。何が言いたいかって、熱の入れようが全然違うって話です。

さらに、集客戦略の一つとして実施する「クイズラリー」。もちろんこれも初めての挑戦ですが、それ以上に大きいのは、その景品としてオリジナルシャープペンを配ること。今年から新しく導入した同好会のロゴ入りで、まさに「ノベルティー」と呼ぶにふさわしい。そんなものを用意するような部が、そもそも他に存在するのか。いや、ない。私が思うに、そういう発想すらも生まれないと思う。4月には別のノベルティーを作ろうとして、「前例がない」と却下されました。でも、だからいいんですよ。それこそ、「新しいこと」の実現になる。

## 水曜討論も、粘り強い話し合いの成果

新しいことは他にもあります。たくさんあります。たとえば、CDの配布。ボイスドラマを収録したCDを、毎年文化祭で配布している放送劇同好会（私もかつて入部していました）を参考に、実現へとこぎつけたいと思っています。けれど、そのCDに何が収録されているのか？ 答えは「水曜討論」です。簡単に説明すれば、部員同士で行う討論会の模様を録音し、インターネットラジオ番組として配信を行っている番組の名前なのですが、実はこの「水曜討論」を実施するにあたって、乗り越えなければならない大きな課題がありました。

インターネット上に政治的な意見を発信するという事は、当然ながらリスクを伴います。不特定多数の人が聴取できる以上、それは仕方のないことです。番組を掲載するのは同好会の公式ホームページ、すなわち高輪学園のサーバー上ですから、無論、学園の許可も必要になります。また、前例も皆無です。すんなり実施できるとは思っていませんでしたし、事実さまざまな壁にぶち当たりました。でも、あきらめる気はなかったです（笑）。丁寧に説明をし、話し合いを重ねていった。1週間で結論が出るかと思えば、3カ月かかりました。

その過程で、学園の坂本校長とも一対一で話をしました。あれが、私が初めて校長室に入ったときですね。思っていた以上に温かみのある方で、実は校長はふだんから「討論」というものを好んでいらっしょるとか。さまざまな先生方に反対された斬新な企画「水曜討論」は、そんな学校長直々の御助力も頂き、実現へとこぎつけたわけです。

## 新しいことをあきらめない

何が言いたいのか。「水曜討論」を実現させたという自分の実績を偉そうに語りたいたいわけでは  
ありません。これは今後も入って来るであろう社歴研の後輩（私の顔を見ることがない人たち  
も含めて）に伝えたいことなのですが、「常に新しいことに取り組んでほしい」ということ。  
それから、その実現にあたっては「あきらめるな」ということ。

14名規模にまで膨らんだとはいえ、まだまだ弱小同好会の一つです。さらに、後に続く人  
たちには失礼ですがたぶん今が最盛期で、これからしばらくの間は一旦冷え込んでしまうこと  
も避けられないと自分では踏んでいます。いろいろな面でね。——そうならないために必要  
なのは、「燃料」です。社歴研として活動していく上での、爆発的なエネルギー。これを長き  
にわたって生み出し続けることでしか、今以上の発展は望めないと思う。そしてその「エネル  
ギー」とは、常に他に引けを取らないような、新しいことに挑戦し続けることなのです。

## 社歴研をぶっ壊せ！

大きなお世話だといわれればそれまでですが、なぜそんな先のことまで気に病むかといえば、  
今の自分にとって社会歴史研究同好会とは自分の存在そのものだと思っているから。設  
立から5年の歴史を持つうち、4年も部長として過ごしてきたわけだから当然かもしれない。

2代目の人間としてしっかり基礎を築き上げることができたのかどうかは、正直なところわ  
からないけれども、最低限何をすべきなのかは意識しながらやってきたつもりです。それら  
すべてを、ぜひ「覆してやるぞ」ってくらいの心意気でこれからの人たちに引き継いでもらって、  
たびたび「改革」してほしい。「自民党をぶっ壊せ！」をスローガンに掲げた小泉元首相では  
ありませんが、「社歴研をぶっ壊せ！」という勢いで、頑張ってもらいたいですね。とくに、  
その先頭に立ってほしい、これからの「社会歴史研究同好会部長」には。

……あーでもロゴだけは、使いつづけてほしいかな…… 力作だから（笑

これね↓

